

中国の不動産バブル終焉やシャドーバンキングによる銀行破綻など度重なる噂により、中国経済はコトコトと音を立てて揺らぎ始めているように感じます。

中国政府のコントロールによりバブル破綻を防ごうと必死の様相ですが、賢い中国人は次の手立てとして海外に資産、資金を確保する事を考えている人々がいる一方で、「中国経済はここ数年、バブルが崩壊する」と言われているが絶対に崩壊しない」とまだまだ不動産の値上がりを期待する人々の2パターンに分かれます。

中国の投資家は、アメリカはもちろんのこと、オーストラリア、シンガポール、マレーシアなどのアジア不動産のキャピタルゲイン、移住を目的に購入されています。

中国人は本当に不動産が好きで人種だと感じます。企業は自分を守ってくれる

その中でも日本は良心的で礼儀正しい人が多く、また国内の町並みがきれいで食文化、観光、自然と優れているものがたくさんあり、デフレが続いても経済が安定しているのが注目を集めています。ただネックなのは中国人等に対するビザの許可が厳しく、送金にもかなりの規制が掛けられているために他の国からの投資が難しいのだと捉えられていることです。そのあたりを緩和すれば投資対象国としては大変魅力的な国であると上海の友人は言います。

投資環境整備が課題

日本経済に明るい兆しが差し込んできた今、海外からの投資環境の整備も日本の経済復活への緊急課題のひとつだと思えます。日本に大変興味を持つ中国人がいる一方で、外交問題の火種や政策的な駆け引きが続く中、人と人が協力し合える環境を見出していききたいと

ゲストハウス社長 松山英樹



中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リポートシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

思う毎日です。

◆ ◆ ◆
7月25日～31日までの期間で、中国介護事業者が10数社参加する「第2回中国シニア視察ツアー」を実施します。神戸と東京において介護施設訪問や日本の介護技術を学ぶ内容となっています。

ツアー参加者は、中国の介護はサービスとしてはまだ未熟であっても日本の介護技術を学ぶことで、よりよい介護サービスを中国の高齢者に提供したいという真剣な思いで参加されます。

このツアーを定期的に開催し、日本と中国の介護の架け橋にできればと考えており、政治は別として人と人との友好的な繋がりをこれからも大事にしていきたいと考えています。